

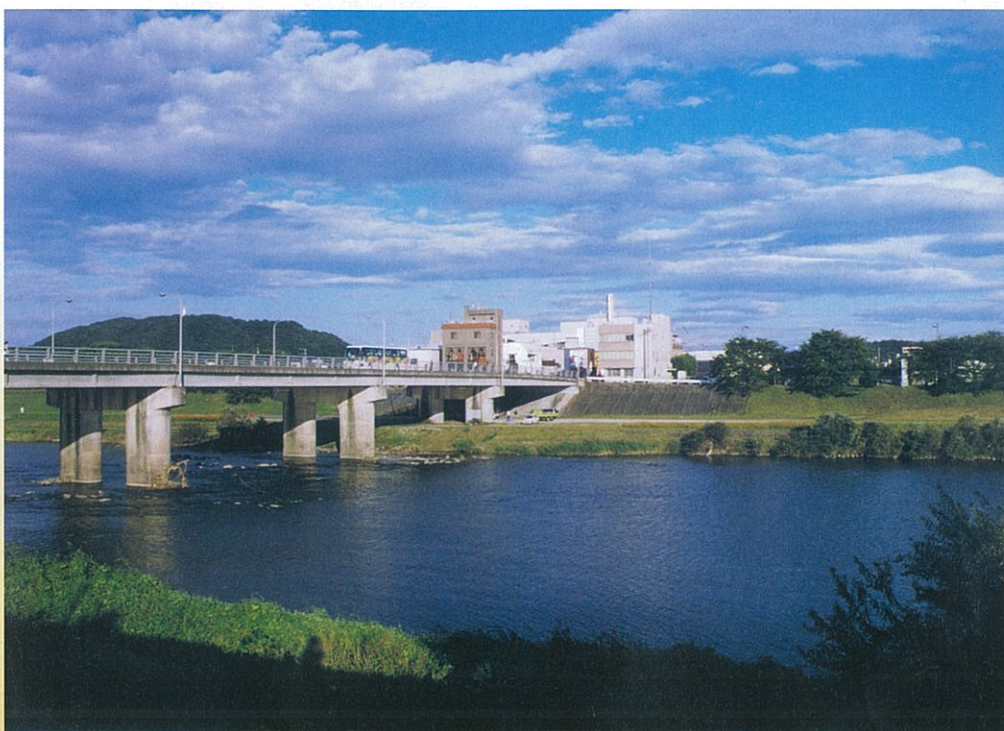
KOTOBA
N O
U M I

ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 33 2010. 3

特集 宮城県図書館のルーツを訪ねて その5



尾形亀之助の生地・大河原町の「尾形橋」(現在の橋は改修後) 亀之助の曾祖父・安平は篤志家で、安平が架け替えに携わった橋は今でも「尾形橋」と呼ばれています。



●宮城ゆかりの作家を、作品の一節とともに紹介します

『ガラス窓の部屋』

夢を見てゐるやうな一日だ

朝から部屋に陽がさしこんでゐた

雲もないし風の音も聞かなかつた

茫つとして夕方になつた

夕方になつて

私は部屋の中に魚を泳がしてみたくなくなつてしまつた

一日中しめきつてゐた埃っぽいガラス窓の外は

くるくると落日が大きいたんぽぽを咲かせてゐる

(「尾形亀之助全集」増補改訂版 思潮社一九九九年二二二ページより)

おがた かめのすけ
尾形 亀之助

(明治33年～昭和17年(1900～1942))

柴田郡大河原町に生まれる。東北学院中学校中退後、仙台で創刊された文芸誌『玄土』に短歌を発表。上京して村山知義・柳瀬正夢らと前衛美術団体「マヴォ」を結成する。のち詩に転じ、大正14年(1922)に第一詩集『色ガラスの街』(恵風館)、昭和4年に第二詩集『雨になる朝』(誠志堂書店)を出版した。晩年には仙台市役所税務部の臨時雇員として勤務した。